

あにわにわ通信

第5号

「あにわにわ」とは、ニュージーランドのマオリ語で虹を意味しています。

2009.4.20

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション発行

代表理事：大日向 雅美・新澤 誠治

子育てひろば「あい・ぽーと」

住所：107-0062 東京都港区南青山 2-25-1
電話：03-5786-3250 FAX:03-5786-3256
E-mail: info@ai-port.jp
URL: <http://www.ai-port.jp>

全国版子育て・家族支援者養成講座事務局

住所：〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509
電話：03-6657-8539 FAX:03-3499-8539
E-mail: station@ai-port.jp
URL: <http://www.ai-port.jp>

新年度を迎えて

法人代表理事
恵泉女学園大学大学院教授

大日向雅美

陽春の候、皆様方におかれましてはいかがが過ぎましたでしょうか？新年度を迎え、なにかとお忙しく活躍のことと存じます。私もこの法人もお陰様で、順調に各地の活動を展開させていただいております。

港区・千代田区・浦安市での子育て・家族支援者養成講座は、地域の子育て力向上という共通の理念を大切にしつつ、各自自治体の特性にあわせた活動が、行政の皆様や支援者の方々のご尽力で活発になされています。誠に有難く、心から感謝申し上げます。

「自治体職員研修」は、三月に二〇〇八年度第三回目を無事、終了いたしました。今回は後期行動計画策定に向けたニーズ調査をテーマといたしました。時宜を得た企画として、参加者の皆様に喜んでいただくことができたのではないかと思います。

加えてこの春には、愛知県の高浜市で、小規模型の乳児保育を担う方々の養成という新たなプロジェクトを開始いたしました。

こうした事業は、行政と企業とNPOとの協働で、新たな子育て支援のあり方を求め、子育てしやすい社会、そして、すべての人々が暮らしやすい社会を築いていくことを目指すものです。この趣旨に賛同し、「自身の貴重な時間とお金を傾けて下さる支援者の皆様の熱い思いがあつて、実現されている事業です。そして、そこに行き及ぶ各自自治体担当者の方、企業の方から惜しみないお力添えをいただけていることを励みとしてスタッフ一同、今後とも微力を尽くしてまいりますと存じます。

この間、大変お世話になった方々に異動があらになりました。港区の川上真二様(子ども家庭支援センター所長)・千代田の新治博様(児童家庭支援センター子育て支援係長)・浦安市の高梨誠二様(子ども家庭課子育て係副主査)が、それぞれ新たな部署に移られました。また住友生命広報部井上小太郎次長が定年で退職となりました。引き続き、大阪で社会文化貢献活動に携われるとのこと。皆様には本当にお世話になりました。春は別れの季節でもあることが身に沁みます。寂しい思いを禁じ得ませんが、心からの感謝を申し上げますと共に、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

全国自治体職員研修

住友生命創業一〇〇周年記念「未来を築く子育てプロジェクト」助成事業、厚生労働省後援第三回全国自治体職員研修が、三月十六日と十七日、子育てひろば「あい・ぽーと」にて開催されました。全国都道府県市区町村から受講生二十名が出席。厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課少子化対策企画室長朝川知昭室長、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社経済・社会政策部主任研究員矢島洋子氏・NPO法人市民活動情報センター・ハンスオン埼玉の西川正氏を講師にお迎えし、大日向雅美代表理事(恵泉女学園大学大学院教授)・汐見稔幸理事(白梅学園大学学長)・岡健理事(大妻女子大学准教授)が加わって、全体で六名の講師による二日間の研修が行われました。

今回のテーマは「子育て支援の最新動向と後期行動計画策定」です。第一日は朝川室長による基調講演「国の施策と後期行動計画について」に続いて、岡理事と西川氏によるニーズ調査の進捗状況と再点検」と題したグループワーク。大日向代表理事と汐見理事が、岡理事の司会のもと、受講生の質問に答えるコーナーがあり、最後に岡理事により「第二日目研修に向けた整理」がなされました。

その晩の情報交換会には、ご多忙中にも関わらず、住友生命保険相互会社から調査広報部次長の井上小太郎氏、調査広報部上席部長代理の澤春生氏も駆けつけて下さり、各自自治体での日頃の苦労や成果などを語り合いました。

二日目は矢島氏に、「ニーズ推計」に関して基調講義をしていただきました。朝川室長と矢島氏が構築された緻密かつ詳細なニーズの把握のための手法についての説明は、本講座で初めて紹介された資料も大変貴重なものであり、参加者の方々にとって、今後、後期行動計画策定に参考にしていただけた



ことと思われまふ。研修の締めくくりとして「後期行動計画と次世代育成をめぐる課題」と題したパネルディスカッションがありました。大日向代表理事から「ニーズ推計は何の目的のためにするのか、サービスの量を推計するためだけのものではなく、各自自治体の特性をいかに反映させるかが大切」と課題が提起され、熱い議論がかわされました。矢島氏からも受講生である自治体職員の方へ「ニーズ推計とはまさに地域を知ることです」との強いメッセージがありました。

今回は、開催時期が議会と重なった時期でもあり、参加人数が少なかったことが惜しまれます。しかし、受講者の方々は、秋田や九州など、遠方からの参加者もいて、皆さんが大変意欲的に研修に取り組んでおられました。時間がとても短く感じられる、活気に満ちた二日間の研修でした。



朝川少子化対策企画室長

浦安ケアマネジャーがNHKに！

ケアマネジャーは地域の子育て相談に応える「ワンストップ的機能」を果たすことを任務としています。不慣れた育児に迷う親は相談すべき窓口の存在も分からなかったり、自分が本当に悩んでいることは何かに気づいていない場合も少なくありません。悩む親の声に身近に接し、必要に応じて専門機関等につなぐ役割は、喩えて言えばホテルのコンシェルジュに近い働きです。市民が専門的な講座での学びを活かし、市民のために子育て支援に力を発揮するという全国にも類を見ないユニークな試みも、開始して間もなく一年。その斬新さと意義が注目されて、4月にNHKの福祉番組「子どもサポートネット」でも取り上げられました。今春、Ⅱ期生が3名加わって、これからもさらに活躍が期待されます。

高浜市子育て・家族支援者養成講座開講

NPO法人あい・ぼーとステーションの子育て・家族支援者養成講座が、愛知県高浜市のご要請をいただいて、今春二月にスタートいたしました。

この事業はこれまでの養成講座と若干異なり、高浜市の家庭的保育の担い手となる支援者の養成を目的としています。家庭的保育の充実には「子どもと家族を応援する日本」重点戦略の中にも記載され、児童福祉法の一部改正の中にも盛り込まれたもので、今後の展開が期待されているものです。

家庭的保育に関しては、待機児対策として急がれる面もあり、他方で「家庭的」という言葉から受けるイメージとして、安易に実施できるかのような誤解も社会の一部にはあるようです。しかし、国の家庭的保育につ

森貞述 高浜市長

高浜市では、平成十二年度より、市民の方のお力をお借りし、市内三か所で三歳児未満児の少人数保育を高浜市版家庭的保育として実施してきました。養成講座を受講された熱意ある方々に、個々の子どもにあった、ゆとりとした保育を提供していただいています。

特に三歳未満児の保育需要が増加する中で、家庭的保育は、施設保育とは違った良さを持つ、別の保育の選択肢として、その質の向上を図っていく必要があります。このため平成二十年度より、あい・ぼーとステーションの皆様のお力をお借りし、高浜市子育て・家族支援者養成講座を実施しました。国の家庭的保育制度の部分でお力をお借りしています。

この講座をきっかけに、高浜市では、平成二十一年三月、三歳未満児の声なき声を聞きとれるような保育を提供したいという想いから、「高浜市乳児保育憲章」を制定しました。二十一年度も引き続き、制度などの検討を進めていきたいと考えています。

いての在り方検討会の審議経過にも明らかに、保育の質の確保については慎重な検討が必要であり、とりわけ担い手となる保育者の養成が重要な課題となっています。

高浜市からの要請を受けて、昨年からは担当者の方々と検討を重ね、また現地の視察も行なわせていただきました。企画を練ってまいりました。その結果、高浜市における家庭的保育は、単なる待機児対策ではなく、むしろ三歳未満児の保育の新たなあり方を目指したものとすることで合意を得ることができました。その理念は「高浜市乳児保育憲章」にまとめることができましたので、ご覧下さい。

春まだ浅い二月にスタートした本講座ですが、三月一日に、全課程と認定試

高浜市乳児保育憲章

平成21年3月18日制定

高浜市では、一人一人の乳児が、人として大切にされ、安心できる環境の中で、自分を深く信頼し、のびのびと育つことができるように、次のことに心がけて、乳児を育てていきます。

- 1 乳児の可能性を信じ、その表情や態度から、一人一人の乳児の声を聴き取る努力をする中で、それぞれのもつ力が豊かに引き出されるよう、育てていきます。
- 2 乳児の経験を大切に、「見守り」、「気にかかけ」、「待つ」ことに心をくぐり、育てていきます。
- 3 地域のすべての大人が、乳児の健やかな成長を願い、それぞれの家庭の子育てを支え、支えあいます。

験を終え、森市長自ら参加者の皆様と共に憲章を読み上げて、修了式を迎えることができました。市長はじめご担当の職員の方々のご尽力に深く感謝申し上げます。この企画は家庭的保育に関する国の基準に可能なかぎり添いつつ、高浜市の特性を盛り込んで、内容を充実させていきたいと考えております。厳しい講座と試験にも耐え、果敢に挑戦して下さった受講者の皆様は本当にお疲れ様でした。さらなる資格の維持向上に向けて今後とも長いお付き合いになることと思いますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本法人代表理事 大日向雅美

受講生の方々から、講座を受講した感想の聲が届いています。

【受講生感想】

○「子どもを育ててきた親だから、その経験を持ってすればよいと思っていましたが、知らなかった事、気が付かなかったことを学び、良い機会を与えて頂いて、嬉しく思っています。」

○「一人では育児はできず、やはり、まわりのさまざまな人の支えがあつてこそ、子どもは豊かに成長できるんだという事を、あらためて再確認しました。自分からも、もっと地域の子ども達にも目をむけ関わりを大切にしたいと思いました。」

○「子育ては、社会や地域で応援し、見守っていく事の大切さをより感じました。」

○「何の不自由なく育つていると思っていた、今の親や子ども達の現状がわかりました。今なせ家庭的保育が必要か、どういった支援が求められているのか、軽い気持ちで家庭的保育に入つて子どもと親に接してきました。あらためて真剣に考え、取り組まなければいけないと思いました。」

○「私は二児の母親として、今まで試行錯誤を繰り返しながら、子育てをしてきました。反省する点も多く、子どもにとつて、私は良い母親だろうか迷う事が多くありました。でも、この子育て支援者養成講座を受けて、迷っているのは私だけではないんだと気づき、その不安を取り除くための「親へのサポート」も大切なことだと知りました。保育士として働いていた頃は、園に来る子どもの事だけを考えていましたが、親になって初めて親の苦労も知り、家庭まるごと考えて、保育しなければいけないのだと感じるようになりました。」

○「今の若い人はとか、自分の子育ての時はこうだ、と言ってしまう、思っていることが過去のですが、現在と過去とは世の中が変わるにつれて、子育て条件、考え方も変わつて来るので、新しい考え方、技術等に敏感にならなければと感じました。」

○「乳児保育の大切さを知り、子どもの声を聞く(傾聴すること)を学びました。」

○「大人もかまつてほしい、子どももかまつてほしいのが、わかりました。」

○「子育て支援は傾聴から始まること、相手の世界に入りこみ肯定的に話を聴くことが大切であること、このことが一番心に残っています。ただ助言するのではなく、相手が自分で判断できるように導くこと、この意味の大きさを痛感しました。研修で様々な年齢・職種の方々を知り合い、親しくなることができました。単発の研修では味うことのできない貴重な体験をさせていただきました。」

○「傾聴」という言葉は、特に重く、深く考えることができました。子ども、保護者、同僚、家庭と様々な場で大切とされるということ、自分に欠けている部分でもありました。吸収したことをステップアップにし、今後の保育に役立てたいと思いました。」

○「いろいろな形の子育てを受け入れ、最終的にそれぞれの子どもが『生まれて来て良かった』と感じられる、自分が関わる時にはそんな支援を心がけたいと思います。そして、支援がボランティアではなく、責任ある専門職の仕事であることも学びました。」



○「私は自分自身が、世間や常識といったものにとまらぬきい父親に育てられ、それが嫌でたまらなかつたにもかかわらず、いつの間にか自分自身も、私の尺度ではなかつた、世間の尺度で子ども達を見るようになっていました。だからこそ自分も苦しかったですが、今回、子どもをいよいよとらえてみる、という事を学び、胸がスツキリする思いでした。そう考えると、私の子どもたちがとても大切で、私にとつて宝物のように思えたのです。これは、今までのどんな魔法よりも効果がありました。私たち親も人間です。誤りもあれば、失敗もあります。しかし、今回の講座で学んだことを生かして、一歩ずつステキな親、ステキな大人になれるといいなと思つています。そして、私と同じように子育てに苦しんでいる方に、ぜひとも伝えたいです。みんな同じだよ。だから大丈夫だよ。」



【講師インタビュー】
三月十八日、のべ八日間の講座が無事修了しました。講師の先生方と高浜市子ども育成グループの方々から、受講生の方々へ感謝とエールを頂きましたので紹介します。



〈汐見裕幸先生〉

「家庭的保育を前提とした講座は、私も初めてでしたが、皆さんに熱心に参加していただき、講座が無事に終えられたことに感謝しております。おそらくこれからの日本の社会の中で、親が孤独に家の中で子育てをしているという時代は終わつて、親が働いていようがいまいが関係なく、必要なときに子どもを、セミプロあるいはセミプロのいる場で、いい体験をさせながら育てていくという社会になつていくと思います。その言わば先駆的な仕事を担っていく意味の重要性、重さを十分理解していただいたと思います。実際に活動を始めてみると予期せぬ問題や難しい課題に直面する可能性もあります。引き続き勉強を続ける体制をとっていただきたいし、いろいろなお力もお願いいたします。」

〈岡健先生〉

「高浜市」発の憲章、子育て・家族支援者も高浜市」初と、様々な形で子育て、子育てを支える人が広がつていき、確実に新しい形が仲間が増えていること。とても嬉しく思います。あい・ぼーとの研修はバックアップ研修が一つの特徴ですが、日々起る出来事をどう受け止め、そこに新たな意味を見出して実践を営んでいくことが、おそらく保育の基本であり、人が人に支えられて成長していく歩みの基本でもあるのだと思います。先を走り始める高浜市の方々、支え、支え合いながら、新しく活動をされていくことを楽しみにしております。」

〈子ども育成グループリーダー 大岡英城氏〉

「今回の養成講座ありがとうございました。高浜発ということもありますが、何よりも今回の研修を通して、乳幼児保育憲章が誕生し、家庭的保育だけではなく保育園や幼稚園を含めた上でのひとつの指針になったことがうれしく思います。受講された方々が、これから高浜の乳幼児保育を地域で支える柱となつていただければと思います。今回は本当にありがとうございました。」

〈子ども育成グループ 都築真哉氏〉

「あい・ぼーとの自治体職員研修を受講して、高浜市でもいろいろなことが出来るといいなと思ひ描いております。それが今回、先生方のお力を借りて実現できたことは感無量です。高浜の市長がいろいろなところへ足を運んで持つて帰つてきてくれることを含めて、高浜のひとりの形だと思つています。」

この講座が無事に修了したことに安堵すると同時に、皆様の協力に感謝しております。自分自身もとても勉強になりましたが、皆様にとりまして、今日が新たな第一歩であり、これからが大変だと思ひます。皆で手を取り合つて進んでいくことが、さらに輪をひろげていくことだと実感しています。ありがとうございました。」

【バックアップ研修報告】



千代田区

二月十七日、「特別支援について」をテーマに大妻女子大学准教授の高橋ゆう子先生をお招きしたバックアップ研修を実施し、十二名の支援者の皆さまが参加されました。

最初に事例紹介。一つの事例を時間軸に沿って見ていくことで、特別な発達を考えたとき、今どんな支援が必要かという視点が繰り返し強調され、幼児期と児童期で必要な支援も変わっていくことについて学びました。

幼児期は、感情のコントロールにアプローチしていくことが大事。行動の抑止から入るのではなく、例えば「それをするとどうなるの?」といった語りかけで興奮がおさまるといった具体的なアプローチを。そして、次の段階で、人との接し方や関わり方が課題となり、「こいつの場合にはこいつうふうにしようね」といった指示の出し方の工夫が必要になってくる、とのことでした。

児童期は、すべて援助されるだけではなく、その子の持っている力をきちんとみていくことが大事。子ども自身が、自分は今どんなことができ、どんなことには手助けしてもらおうことが必要かを感じ、それを言葉で表現していく大切さを教えていただきました。

質疑応答では「いきなり立ち上がりたくなる子どもにどのように対応したらよいか?」という問いに対して、高橋先生自ら手の差し伸べ方を実践、支援者さんはなるほどと感心した様子。支援者として発言したり話を聴いたりする際の留意点についても指導いただきました。

最後に、「長く関わっていると問題になることが変わっていくことがよくわかります。私たちが関わる時期はほんの僅かかもしれないので、それをふまえた上で、この時期を今後の成長にどうつなげてあげられるか考えながら、今を大事にしていきたいと思います」という先生の言葉で、熱気あふれる一時間半のバックアップ研修は終

港区

了しました。以前より「特別支援についての学びの場がほしい」という支援者の皆様からのご要望も高く、今回、特別支援に関する研修の実現につながりました。これからも、支援の現場で気づかれたこと、工夫されたことを、支援者さん同士で共有できる場を提供してまいります。

二月十二日のバックアップ研修は、「育児困難家庭への支援の事例・今後求められる支援活動」と題して、港区立子ども家庭支援センターの奥村直人主査をお招きして、三級・二級合わせて三十六名の支援者の皆様にご参加を頂きました。

まず、少子化や核家族化などによって家庭や地域における子育て機能の低下が問題になっている中で、幼稚園や保育園といった既存の支援に加え新たな子育て支援施策として、あい・ぽーとが実施している「乳幼児一時預かり事業」「派遣型一時保育事業」「子育てひろば」「育児支援家庭訪問事業」等があることを説明頂きました。

中でも、「育児困難家庭への支援」は、本来子どもへの養育について支援が必要でありながら、積極的に自ら支援を求めていくことが困難な状況にある家庭への支援であることから、通常の「通所型」や利用者自らの「申請主義」では対応出来ないこと。児童虐待に繋がってしまう前の段階において、周囲の気づき・情報提供から訪問による育児・家事の援助等へつなげて実施することにより、安定した子どもの養育を可能とすることを目的として、「育児支援家庭訪問事業」が開始したことをご説明頂きました。この事業は、港区の二級の支援会員の活動の場ともなっていて、事例についても学ぶ機会を得ることが出来ました。

最後に、育児困難家庭に関わらず、すべての子育て家庭への支援の必要性が児童福祉法の一部改正に盛り込まれ、あい・ぽーとの支援者が担っている活動の社会的価値は高まっていること等、支援者の皆様への激励の言葉を頂き、地域の育児力向上のための活動の意義について再認識出来た研修となりました。

【バックアップ研修開講予定】

港区

五月二十二日(金) 十時から十一時三十分
内容 活動状況報告及び課題解決に向けた助言
講師 大日向雅美(本法人代表理事・子育てひろば「あい・ぽーと」施設長)

浦安市

五月二十二日(金) 十三時から十四時三十分
内容 活動状況報告及び課題解決に向けた助言
講師 大日向雅美(本法人代表理事・子育てひろば「あい・ぽーと」施設長)

千代田区

五月二十七日(火) 十三時から十四時三十分
内容 手作りおもちゃの作成
講師 小松和人
(おもちゃのコミュニケーション代表兼おもちゃデザイナー)

五月二十七日(火) 十三時から十四時三十分
内容 手作りおもちゃの作成
講師 小松和人
(おもちゃのコミュニケーション代表兼おもちゃデザイナー)

※会場はすべて浦安市文化会館三階会議室

【千代田区訪問型一時保育事業】

二〇〇九年四月から千代田区の新規事業として、あい・ぽーとステーションが「訪問型一時保育」を実施することになりました。預ける理由を問わずに、宿泊や病後児の保育もお受けする本事業は、港区に次いで行なわれるもので、全国でも先駆的な子育て支援策として、利用される方々のニーズに寄り添った柔軟な保育を目指します。

【養成講座開講情報】

港区

「子育て・家族支援者養成講座二級Ⅵ期」を開講します。全講座を修了し、支援者として認定を受けた人は、港区派遣型一時保育・育児支援家庭訪問事業の支援会員として、港区内の支援を必要としている子育て家庭に向いて保育者として有償で活動が出来ます。開講日 二〇〇九年九月から毎週金曜日で開講予定。

【問合せ先】
講義と実習を含む三十コマ
会場 子育てひろば「あい・ぽーと」

【問合せ先】
子育てひろば「あい・ぽーと」池田まで
電話 〇三(五七八六) 三二五〇

浦安市

「浦安市子育て・家族支援者養成講座(三級第Ⅵ期)」を開講します。
開講日 二〇〇九年五月十一日(月) から七月十五日の、原則毎週月曜日で開講。講義と実習を含む三十コマ

【問合せ先】
浦安市こども部こども家庭科子育て係
電話 〇四七(三五一一) 一一一一(代表)

千代田区

「千代田区子育て・家族支援者養成講座(三級第Ⅵ期)」を開講します。全講座を修了し、支援者として認定を受けた人は、千代田区内施設・児童館等での一時預かり保育や学童クラブの補助などの有償活動ができます。
開講日 二〇〇九年五月十五日から七月十七日の毎週金曜日に開講。

【問合せ先】
講義と実習を含む三十コマ
会場 千代田区役所会議室あるいは西神田児童センター小ホール

【問合せ先】
NPO法人あい・ぽーとステーション子育て・家族支援者養成講座事務局 榎本・原口まで 電話 〇三(六六五七) 八五三九